

令和 5 年度 みどり ご 園 事業報告

1. 令和 5 年度の概況

今年度より 1 歳児 12 名での運用となった。家庭事情により出入りはあるが、安定した運営となる。職員の傷病が重なり、職員間でカバーしあいながら日々の保育にあたった。人材を募集するも計画的な人材確保ができなかった。

地域的な特徴からか、外国籍の園児が多く今年度も個別の対応が必要とされた。食事、文化や宗教についても丁寧に対応した。

福祉サービス第三者評価の受審をし、結果を踏まえ良い評価についてはさらに向上させ、要望については改善できるよう努めていきたい。

2. 基本方針に関する報告

大人一人ひとりが子どもや職員間で「いてくれてありがとう」の気持ちを持ち、落ち着いた家庭的な保育環境の中で、子どもの人格及び能力が豊かに発達することを目指し、保育をおこなった。また、多様な保育ニーズに対応し、保護者にも寄り添うことを心がけた。

保育をする上で個人の尊厳を大切に保育実践にあたった。保育の質を高めるために積極的に研修に参加した。また、障がい児保育も専門家からのアドバイスを受けながら行うことができた。

地域の保育園として、一時保育の必要性があり、通年利用児がいた。

3. 重点課題

(1) 保育内容の充実

自発的に遊びたくなる良い環境作りに努め、年齢・発達に応じた遊びが出来るよう環境設定に心がけてきた。年齢に応じ、日常生活の中でできまりを大切にそれを守ることを伝え保育実践に心がけた。

(2) 次世代を担う職員育成と人材確保

職員育成と研修計画においては、一人ひとりが自分の特質を活かせるような職員集団を目指し、職員一人ひとりの保育観の獲得に努めた。

(3) 外国籍保護者と園児の対応と保育内容の検討

園の特徴として外国籍園児の増加に伴い、寄り添った対応ができるように心がけた。

(4) 要支援児への対応

今年度も数名の要支援児の対応があった。関係機関と連携し、就学児に関しては就学先との連携をした。

4. 児童定員と児童在籍・入退所状況等

(1) 園児受託状況 定員 90 名 暫定定員 92 名

(2) 延長保育事業利用状況

- ① 延長保育を希望する登録者は最終的に 35 名。
- ② 0 歳児は満 1 歳を迎えてからの利用。
- ③ 保育短時間家庭は、スポットで延長利用があった。

<保育標準時間>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用数	18	16	15	11	12	15	15	11	17	16	15	15	176

(3) 一時保育「ゆり組」の事業状況

就労目的の定期利用児あり。

年間利用者数 13名 年間利用回数 122回

5. 職員配置状況

○正規職員数：14名 非正規職員数：9名（令和6年3月31日現在）

常勤職員 14名… 園長(1) 保育士(11) 看護師(1) 事務等(1)
非常勤職員 7名… 保育士8H(2) 6H勤務(1) 4H(2) 調理員(1)
パート職員 2名… 清掃(1) 支援員(1) 嘱託医(1) 管理栄養士(1)

6. 運営報告

(1) 今年度運営管理を潤滑に行うため以下の会議を計画し状況に応じて対応してきた。

職員会議、保育会議、部署会議、幼児会議、乳児会議、調乳会議
運営会議、クラス会議、総括会議 等々

(2) 各種係・委員を設置し職員全員が分担し運営できた

- ① 研修委員会：園内研修の企画や準備を行った。
- ② 行事係：年間行事の計画の立案と実践
- ③ 環境整備委員会：室内外の安全点検(園庭チェック・草取り・冷蔵庫チェック)等
- ④ ヒヤリハット委員会：集計と分析が毎月行われ、職員会議で報告された。
- ⑤ 備蓄委員：備蓄の点検、賞味期限の確認管理を行った。
- ⑥ 広報委員会：ホームページの更新・職員紹介写真の掲示
- ⑦ 職員交流係：職員の交流会を行った。
- ⑧ 安全衛生委員：職員ストレスチェックを行った。
- ⑨ 働き方検討委員会：法人と状況の話し合いを重ねた。

7. 保育実践報告

(1) 保育理念を基に、日々適切な保育を行った。

乳児は情緒の安定や特定の大人との愛着関係を大切に、保育を心がけた。

(2) 要支援児の保育は保護者の理解を得ながら専門機関と併行で保育を行った。

(3) 地域の子育て支援として次年度初めて保育園に預けることへの不安解消などのために、気軽に園見学を受け入れた。また、保護者就労のため一時保育の通年利用児にも対応できた。

8. 年間行事報告

月	子ども	保護者
4	・入園式(新入園3歳児) ・イースター	・入園式(新入園3歳児保護者) ・各クラス保護者懇談会
5	・年長児遠足	・避難引き取り訓練 ・年長児遠足(お弁当)
6	・交通教室 ・個人面談	・個人面談
7	・ゆりの記念日礼拝 ・プール開き ・年長児夏のおたのしみ会 ・なつまつり	・なつまつり参観
9	・おみせやさんごっこ	

10	・運動会（朝日5丁目第2公園）	・運動会参観
11	・防災教育訓練 不審者防止教室 ・マラソン大会	
12	・クリスマス祝会（南平文化会館）	・クリスマス祝会参観日 ・年長児個人面談
2	・豆まき ・音楽会 ・剣道大会	・個人面談 ・音楽会参観日
3	・ひなまつり茶会（年長） ・お別れ遠足 ・卒園式	・遠足（全クラスお弁当） ・卒園式（5歳児保護者のみ）

9. 食生活・食育についての取り組み

(ア)食育

旬の食材を積極的に取り入れ、季節感のある献立づくりを心掛けている。素材の味を活かした。

給食会議（栄養士、調理員）にて、メニューや味付け、調理法について改善していくように評価検討し、献立に反映するようにした。

- ・行事食メニューとして実施（七夕・クリスマス・ひなまつり）
- ・五大栄養素表を使って食物の成分を学び、食物への興味関心を持ち、さらに感謝の気持ちをはぐくむことができた。
- ・給食室と連携し、野菜の栽培の観察や収穫を行った。
- ・食育だよりを発行した。

(2) 食物アレルギー児対応を行った。

(3) 宗教食

調味料を含め、豚脂等原材が追いきれないことも保護者と相談し、お弁当持参で対応。

10. 医療・保健・健康についての取り組み

(1) 内科健診

- ・全園児健診年2回。

(2) 歯科健診

- ・全園児年1回行った。
- ・講話での歯みがき指導を希望し実施。

(3) 身体測定

- ・家庭用身長体重計での計測であることを保護者に伝え、毎月計測を行った。

(4) その他感染症

インフルエンザA型：16名。インフルエンザB型：25名。溶連菌感染症：10名。胃腸炎：9名。

プール熱：9名。コロナウイルス感染症：4名。RSウイルス感染症：3名。ヘルパンギーナ：3名。

手足口病：2名。水疱瘡：1名。

(5) 熱性けいれん

既往児 1名。ダイアップ預かり 1名。37.5℃以上でダイアップの使用。

(6) 喘息 今年度なし

(7) 皮膚炎

体調悪化に比例して皮膚症状が悪化するが多かった。主治医によりアトピー性皮膚炎と診断つかないとの判断されることもあった。

1 1. 安全対策・防災対策

(イ)安全対策・防災対策・リスク

- ① 川口市交通安全課により交通安全教室に参加。
- ② 防災対策について避難訓練の実施
- ③ 熱中症対策について、水分補給を頻回に行い、各クラス熱中症対策に努めた。
- ④ 安全計画の策定について、マニュアルを見直し改した。
- ⑤ 防犯訓練、不審者訓練を行なった。
- ⑥ ヒアリハット、アクシデント報告・集計をし検討会の開催

(ウ)事故報告

- ・1歳児 右小児肘内障 1名。

(エ)入院等なし

1 2. 環境整備

- (1) 園庭空間のあり方を見直し、環境と空間から子どもの育ちを支えていけるようにした。
- (2) 保育・給食備品について、買い替えに向けた検証を計画的に実施した。
- (3) 園芸作業について、職員でできることは継続実施し、子どもの育ちへ還元した。
- (4) ごみ問題について検証し、減量に繋げた。

1 3. 保護者支援に関する報告

ここ近年の変化の特徴は保護者へのサポートである。コロナにより保護者の働き方に変化があったりそういう中での子育て、家族の生活が安定できるように保育園の立場で寄り添い、支援ができた。子どもたちの育ちを共に担うパートナーという関係の保育園の存在は大きい。職員も親も決して一人で背負い込まないことが必要である。

1 4. ボランティア・実習生の受け入れ

卒園児との交流機会は見送ってきたが少人数での受け入れを再開できた。

- ・小、中、高校生ボランティア 7名
- ・実習生 1名（埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校保育士科）

1 5. 地域活動（連携）・地域貢献活動等

- ・地域の小学校の交流会に参加し、就学児が小学校入学の際に不安感や緊張感が少しでも緩やかであるよう心掛けた。
- ・地域のお祭りに参加しボランティアとして活動した。
- ・地域の子育て世代や待機児童の緩和レスパイトケアのため一時保育を行った。
- ・地域の公園の清掃を職員が交代で行った。

1 6. 広報活動

- ・ICTの活用でお便りの電子配信を実施。園だより・ほけんだより・食育だより・クラスだよりは毎月1回発行。
- ・ホームページの更新を行うよう努めた。

17. 専門職間の連携・協力

発達に支援の必要な子どもや生活に支援の必要な保護者に対し児相、保健センター保健師、川口市役所子育て相談課等と連携し情報交換を行った。

栄養士・看護師の存在も大きく、それぞれの専門性で的確な対応がなされ、子どもの育ち、保護者の不安解消につながった。

18. 職員育成・研修等の報告

(オ) 園内研修 姿勢ケア育児サポーターによる研修を行った。

(カ) 職員研修

- ① キャリアアップ研修 3名受講。
- ② 川口市による保護者支援研修・不適切保育等の研修全職員が参加できた。
- ③ 新任保育士が救命救急講習会に参加。

19. 職員の働き方改善への取り組み報告

- (1) 時短取得や病休制度取得等職員の移行を優先した勤務体制を心がけた。
- (2) 休暇について、年度内有給休暇取得率：常勤84%、非常勤は67%で取得した。

20. 児童の権利擁護と苦情解決第三者委員会の取組み報告

今年度の第三者評価の利用者アンケートでは、全体を通して「満足しており、毎日安心してあずけられている。子どもの発達にも細やかな配慮してもらっており、心から感謝している。」といった意見が多く寄せられた。また、ホームページにおいて苦情解決第三者委員会の存在と役割を周知した。

21. 福祉サービス第三者評価の受審

株式会社「ブルーライン」に依頼。利用者アンケート結果 52名/77名 68% 令和6年2月1日

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
総合満足度	59%	39%	0%	2%	0%

22. 中長期計画の取り組み状況

- (1) 子育て支援・保育園の役割を職員全体で考える機会を大切にしていく
保護者支援は欠かせない課題であり、子どもだけでなく、保護者の気持ちを支えることも保育園の大きな役割となっている。様々な保護者に寄り添えるよう努めていきたい。
- (2) 職員一人ひとりが主体的に園運営にかかわれるように開かれた運営を目指す
園内組織として委員会、園全体の取り組みとして考えあう機会が増やした。
- (3) 設備環境のメンテナンスを定期的に行い、機能維持に努める。また、老朽化所は続くため、繕等に関しても計画的に実施していく
委員会やクラス、部署からあがってきた意見を集約し、計画的に実施。突発に起こり得ることも対応できるように予備費対応も見込むこととしている。
- (4) 社会的な傾向とニーズを捉え、入所に関し柔軟な対応ができるよう検討していく
当園の保育方針でもある個別的なかかわりの対応で、障がい児の受け入れをしており今後も園内で検討し、受け入れていくための手立てを模索しているところである。そのために個別

対応人員も必要となることも予測され、引き続き総合的な検証をしているところである。

2.3. 財政面の見通し

人件費の負担軽減策を検討しているが、全体的な支出の面で職員給与からの社会保険料が経営を圧迫している傾向があり、慎重な見直しが必要と思われる。